

## 地球温暖化の影響について

地球温暖化が進行すると、夏の猛暑や強い雨が更に激しくなり、暑さによる健康被害、大雨による土砂災害や水害、高温による農作物の被害などの影響があると考えられています。  
「出典：気候変動適応情報プラットフォーム」



気候変動(地球温暖化)に対しては、緩和策(温室効果ガスの排出削減など)はもちろんのこと、被害の回避・軽減を図る適応策に取り組むことが重要とされています。(参考：気候変動適応計画(令和3年10月22日閣議決定))



気候変動適応情報プラットフォーム  
(国立環境研究所)

地球温暖化の影響や適応については、気候変動適応情報プラットフォーム(国立環境研究所)をご参照ください。

## (参考) 予測シナリオについて

本リーフレットでは、気候変動に関する政府間パネル(IPCC)第5次評価報告書(AR5)で用いられたRCP2.6シナリオとRCP8.5シナリオに基づき将来予測を行っています。

RCP2.6シナリオでは、21世紀末(2081-2100年)の世界平均気温が、工業化以前※と比べて約2℃(0.9~2.3℃)上昇する可能性が高いことから、本リーフレットでは「2℃上昇シナリオ」と表記しています。これは、[パリ協定の2℃目標が達成された世界](#)であり得る気候の状態に相当します。RCP2.6はIPCC第6次評価報告書(AR6)のSSP1-2.6に近いシナリオです。

RCP8.5シナリオでは、21世紀末(同上)の世界平均気温が、工業化以前と比べて約4℃(3.2~5.4℃)上昇する可能性が高いことから、本リーフレットでは「4℃上昇シナリオ」と表記しています。これは、[追加的な緩和策を取らなかった世界](#)であり得る気候の状態に相当します。RCP8.5はIPCC AR6のSSP5-8.5に近いシナリオです。

※1750年より以前の期間を示しますが、世界的な観測が行われるようになった1850-1900年の観測値で代替しています

## 全国の情報はこちら

「日本の気候変動2020」  
(文部科学省・気象庁、令和2年12月公表)



## 東京都の情報はこちら

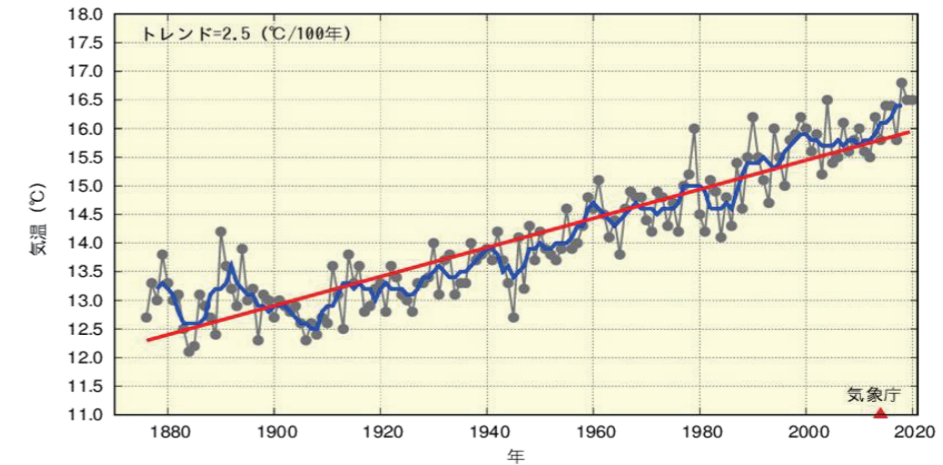
気候変化レポート  
—関東甲信・北陸・東海地方—  
東京都の気候変動  
—このリーフレット—



# 東京都の気候変動

「日本の気候変動2020」(文部科学省・気象庁)  
に基づく地域の観測・予測情報リーフレット

## 東京(千代田区)のこれまでの気温の変化



東京(千代田区)の気温は100年あたり約2.5℃上昇しています。  
東京都の将来の気候はどのようになるのでしょうか。

このリーフレットでは、20世紀末と比較した21世紀末の将来予測を、以下2つのシナリオについて示しています(詳細は裏表紙をご覧ください)。

### 2℃上昇シナリオ(RCP2.6)

21世紀末の世界平均気温が工業化以前と比べて約2℃上昇。  
パリ協定の2℃目標が達成された世界。

### 4℃上昇シナリオ(RCP8.5)

21世紀末の世界平均気温が工業化以前と比べて約4℃上昇。  
追加的な緩和策を取らなかった世界。



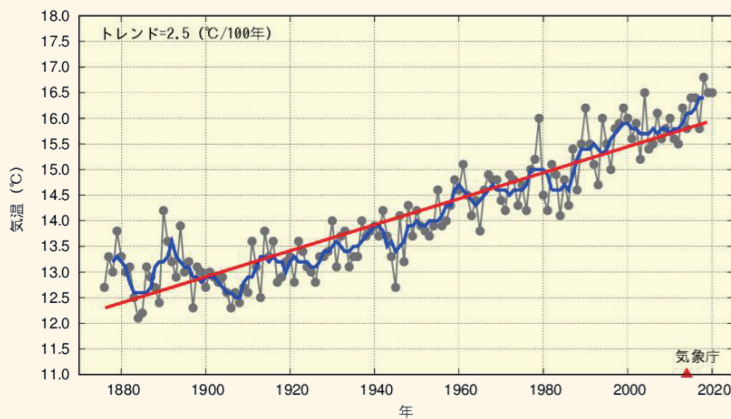
# 年平均気温の変化

➤ 21世紀末には年平均気温が約1.3℃/約4.2℃上昇 (2℃/4℃上昇シナリオ)

## これまで

東京(千代田区)では年平均気温が100年あたり約2.5℃上昇しています。

東京(千代田区)の年平均気温

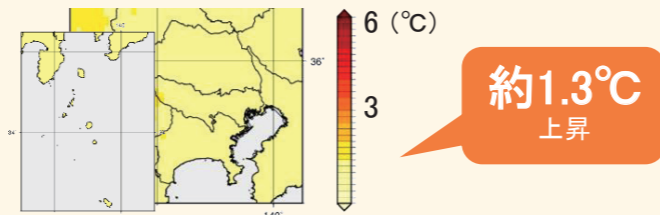


観測場所の移転による影響を補正したデータを使用しています。

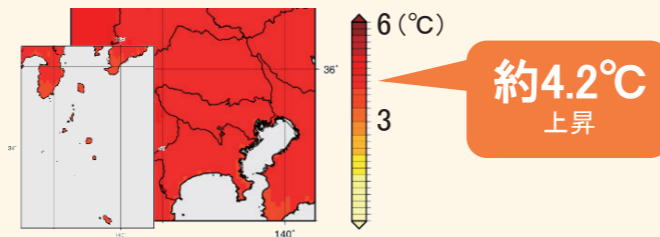
## これから

東京都を平均した変化量を示す

### 2℃上昇シナリオ



### 4℃上昇シナリオ



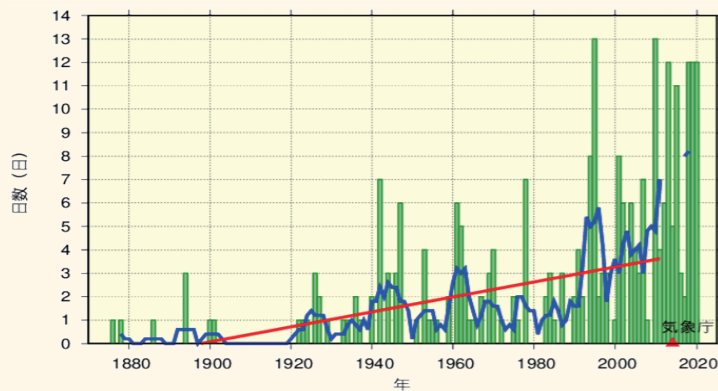
# 猛暑日や熱帯夜などの変化

➤ 21世紀末には猛暑日が約6日/約31日増加 (2℃/4℃上昇シナリオ)

## これまで

東京(千代田区)では特に1990年代以降 猛暑日や熱帯夜が**増えています**。

東京(千代田区)の年間猛暑日日数



東京の観測地点は2014年に移転しているため長期変化傾向は2013年までのデータで評価しています。

## これから

東京都を平均した変化量を示す

### 2℃上昇シナリオ

猛暑日	6日程度増加	↑
真夏日	18日程度増加	↑
熱帯夜	14日程度増加	↑
冬日	16日程度減少	↓

### 4℃上昇シナリオ

猛暑日	31日程度増加	↑
真夏日	60日程度増加	↑
熱帯夜	58日程度増加	↑
冬日	37日程度減少	↓

猛暑日:日最高気温35℃以上 真夏日:日最高気温30℃以上 熱帯夜:ここでは日最低気温25℃以上 冬日:日最低気温0℃未満

→ 産業や生態系など広い分野への大きな影響と健康被害の増大

このリーフレットの東京都の将来予測は、島しょ部を含んでいません。

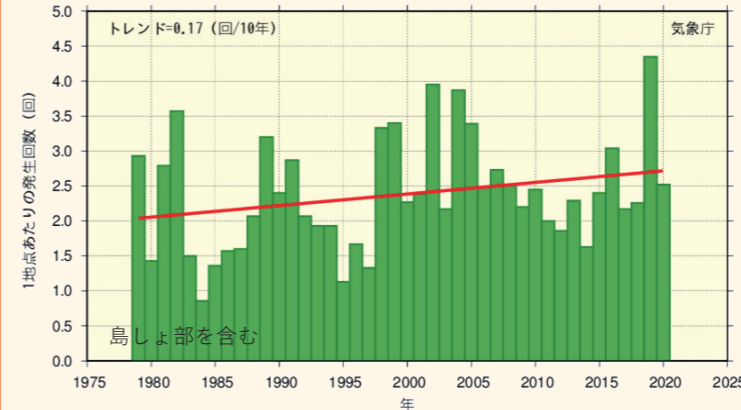
# 雨の変化

➤ 21世紀末にはバケツをひっくり返したように降る雨\*の発生が-/  
約1.5倍に (2℃/4℃上昇シナリオ)

## これまで

東京都は1時間降水量30mm以上の発生回数が増えているとみられます。

東京都の1時間降水量30mm以上の発生回数変化



## これから

東京都を平均した変化量を示す

### 2℃上昇シナリオ

東京都では1時間降水量30mm以上の雨の回数に有意な変化はみられません。

### 4℃上昇シナリオ

東京都では1時間降水量30mm以上の雨は**約1.5倍**に増加。

地域単位での予測は不確実性が高いことに注意

\*バケツをひっくり返したように降る雨:1時間降水量30mm以上

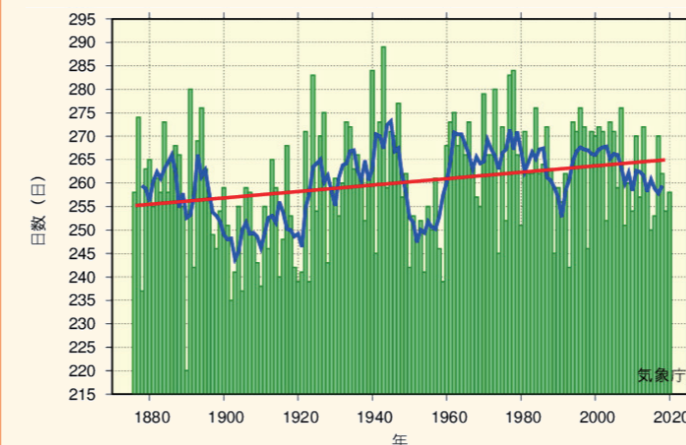
# 雨の降らない日の変化

➤ 21世紀末には雨の降らない日\*が-/  
約8日増加 (2℃/4℃上昇シナリオ)

## これまで

東京(千代田区)では雨の降らない日が100年あたり**約7日**増えています。

東京(千代田区)の年間無降水日数



## これから

東京都を平均した変化量を示す

### 2℃上昇シナリオ

東京都では雨の降らない日に有意な変化はみられません。

### 4℃上昇シナリオ

東京都では雨の降らない日は年間**約8日**増えます。



\*雨の降らない日:日降水量1.0mm未満の日

→ 大雨による災害発生や水不足などのリスクが増大

気候変動による一般的な影響を記載したものであり、東京都について評価したものではありません。気候変動の影響については環境省『気候変動影響評価報告書』等をご覧ください。